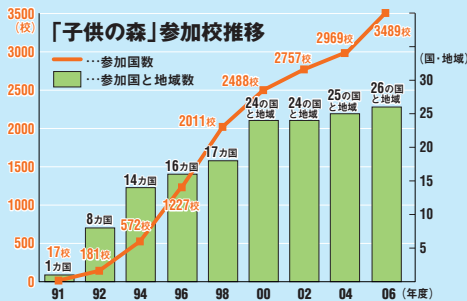


# 「子供の森」計画 略年表

- 1991年** 「子供の森」計画スタート(フィリピンの17校)
- 1992年**
  - フィリピン政府とCFPの協約を締結。活動拡大の兆し
  - フィリピンでは国内のCFP調整員を集めて第1回目のセミナーを開催
  - CFP調整員を日本に招き、第1回林業研修を実施
- 1993年**
  - 「第4回森と緑の祭典—緑の感謝祭」(日本)でCFPが「みどりの文化賞」を受賞
  - リオ・デ・ジャネイロでの「地球サミット」でオイスカが「地球サミット賞」を受賞。CFPの意義も高く評価された
- 1994年**
  - フィリピンのCFP参加校から児童6名が活動報告のために来日
- 1995年**
  - (財)国際文化交友会月光天文台が発見した小惑星が「子供の森」と命名される
  - CFP支援のため、書き損じハガキの回収スタート
- 1996年**
  - フィリピンのマラカナン宮殿でCFP5周年記念フォーラム開催
- 5周年**
- 1997年**
  - 環境劇や紙芝居などの環境教育分野の活動が本格化。日本人学生も活動に参加
- 1998年**
  - グローバル「子供の森」基金を設置
- 2000年**
  - CFPの絵本「森のささやき」が完成
  - 日本版CFPとも言える「学校林活動」がスタート
- 2001年**
  - オイスカ創立40周年を記念し、CFPをテーマに「ラブリーンアクション2001」を開催
  - 併役・赤井英和氏がCFPの親善大使に。マレーシア・ボルネオ島でCFP参加校の植林に参加
- 10周年**
- 2002年**
  - ベルマークでのCFP支援開始
  - 赤井英和氏がフィジー・ビチレブ島でCFP参加校の植林に参加
- 2003年**
  - ヨハネスブルグでの「地球サミット」でCFPを紹介。大きな反響を得る
  - 赤井英和氏がタイ・スリン県でCFP参加校の植林に参加
- 2004年**
  - 12月に起きたスマトラ沖大地震・津波で被害を受けた国々のCFP参加校に、物資や宿舍の支援、校舎修復や、日本から励ましメッセージを送るなど、復興支援を実施
- 2005年**
  - インドで「世界子ども環境サミット」開催。CFP参加校の生徒を含め、インド、エチオピア、日本などから500人の子どもが参加
- 2006年**
  - ジャワ島中部地震の復興支援でインドネシアのCFP参加校8校へ校舎再建支援などを実施
  - 各国のCFP調査費を集め、タイで第1回CFP調整員研修開催
- 15周年**
- 2007年**
  - 各国のCFP調査費を集め、タイで第2回CFP調整員研修開催



## 「CFPの可能性」

CFPの活動はさまざまです。このコーナーでは、CFP活動の具体的な事例を2つご紹介いたします。

### 1 CFPから始まった村づくり

CFPをきっかけに、子どもたちの活動が村や政府を巻き込みながら村の生活改善と新たな産業興しにまで発展した村づくりの事例があります。

タイ北部ランブーンにあるメームーイ小学校は、2000年から5年間、CFPに参加していたCFPのOB校です。同校は、CFPへの参加がきっかけで、環境や自然への関心が高まり、05年にオイスカからの資金支援が終了した後も学校内で環境保全などに関するさまざまなプロジェクトを展開し、国からの表彰も受けています。植林をはじめとして、環境問題に関する授業、生ゴミからの堆肥づくりやその堆肥を利用した野菜などの有機栽培、ゴミの分別や不用品交換会など、その活動は多岐にわたります。また、学校で堆肥づくりを学んだ子どもたちが村人に作り方を教えたり、できた野菜を使って料理コンテストを開いたりするなど、村人との交流も盛んになりました。

環境保全についての知識や経験を得、村人と交流する中で、子どもたちの目は学校だけでなく、村内の環境へと向けられるようになりました。村の生活環境を考え、子どもたち自身が村内で何が問題なのかを聞き取り調査したところ、安全な水を確保できないことと、ゴミが問題であることが明らかになりました。そこで校内で行っているゴミのリサイクル活動を進める一方、政府から助成金を得て水源の調査を実施しました。この調査で、村内の地下に安全な水が確認され、村人はその水を使用できるようになっただけでなく、地下水を利用したミネラルウォーターの工場を起業するまでになりました。



村人たちに、堆肥の作り方を教えるメームーイ小学校生徒たち

### 2 研修生の「環境劇」で「気づき」を

CFP調整員の多くは、国内外にあるオイスカの研修センターで研修を受けた研修生OBたちです。CFPの説明をして参加校を募ったり、参加校をまわり植林の指導や活動に対するアドバイスを行うたりしています。ここでは、CFPを支える調整員の活動のひとつをご紹介します。

く見せることで、植林前に子どもたちが森の大切さや、役割を学ぶ「気づき」の機会となり、子どもたちの植林に対する意欲向上に効果を発揮しています。

パプアニューギニアのCFP調整員(ラバール・エコテック)研修センターの研修生とそのOBたちは、CFP参加校で植林活動を行う際、自分たちで作った「環境劇」を子どもたちの前で演じます。テレビなどの娯楽が少ないパプアニューギニア。子どもたちは調整員たちの劇に見入り、とても楽しんでる様子です。この「環境劇」は、森の働きをわかりやすく

「環境劇」は、子どもたちへの意識啓発だけでなく、CFP調整員自身が環境について考え、環境教育を行う能力を向上させることも目的としており、フィリピンやタイなど他のCFP実施国でも採用されています。



研修生や研修生OBたちによる環境劇の様子(パプアニューギニア)

# 「子供の森」計画 活動実績と事例紹介





「子供の森」計画 植林実績と参加校数

